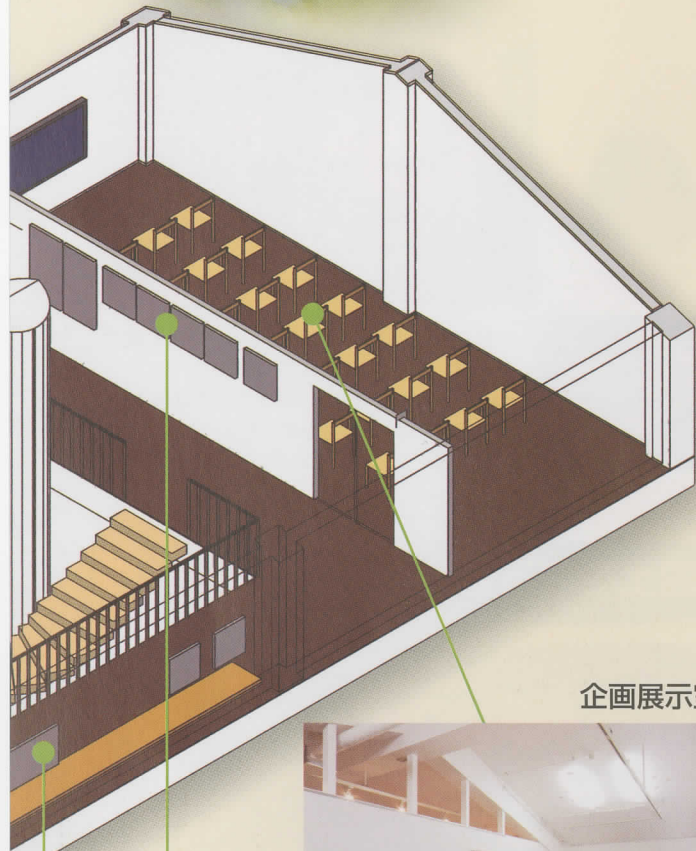




フロアマップ
FLOOR MAP

2F



企画展示室



10 東北森林管理局の取組



国による森林の管理・経営は明治時代から始まり、様々な変遷を経て、現在は東北森林管理局が東北の国有林を預かっています。ここでは、東北森林管理局の森林の管理経営の考え方や森林の保護・保全の考え方を紹介します。

森林博物館までの案内図



●「仁別国民の森」の案内板に従ってお越し下さい

利用案内

- 入館料／無料
- 開館期間／5月上旬～11月上旬
(詳しくはホームページでご確認下さい)
- 開館時間／5月～9月 10:00～17:00
10月～11月 10:00～16:00
- 休館日／毎週火・水・木曜日(祝祭日は除く)
※休館日の団体利用は相談に応じます

交通案内(仁別国民の森まで)

- JR秋田駅より車で約50分
- 秋田自動車道 秋田中央ICより車で約50分
仁別集落より先の道はせまくなりますので
運転にはご注意ください

お問い合わせ先

■各種イベント、利用案内は…

東北森林管理局

〒010-8550 秋田県秋田市中通5-9-16
指導普及課 TEL.018(836)2214

■現地の情報は…

仁別森林博物館

秋田県秋田市仁別字務沢国有林22林班
TEL.018(827)2322

<http://www.tohoku.kokuyurin.go.jp/>

仁別森林博物館

仁別の森へ
ようこそ

11 木材を活かす

森林が豊富な東北では、古くから木材が人々の生活に利用され、素朴で優れた民芸品が生まれ、今も受け継がれています。

また、近年では新しい木の使い方が考案され、木材利用の幅が広がっています。



休憩コーナー



12 山での暮らし



山は、私たちの衣食住のほとんどの材料を提供してくれます。ここでは、建築材だけでなく、燃料から食糧に至るまで、山を最大限に有効活用し、生業としてきた人々の暮らしを紹介します。



1「仁別の森」の紹介

「仁別の森」では、天然秋田スギやトチノキなど木々がたちならび、梢で小鳥がさえずります。小さな野草が花や実をつけ、蝶やトンボが飛び回っています。

ここでは、生命力にあふれた美しい「仁別の森」を紹介しています。



2 天然秋田スギ美林の成り立ち



スギは、古来から日本人の暮らしに深く関わり、日本独自の文化のなかで、なくてはならない存在です。

特に、秋田はスギの宝庫で、「天然秋田スギ」は、木曽ヒノキ、青森ヒバと並んで日本三大美林の1つです。

ここでは、「天然秋田スギ」がどのように成立してきたか、科学的な立場から紹介しています。

3 天然秋田スギの歴史に学ぶ保護・保存



豊富な天然秋田スギは、時代によって様々な用途に使われてきました。

しかし、資源は無限にあるものではなく、スギ資源の枯渇の危機に面した人々は、保護や保全をしながら上手に利用してきました。



9 メモリアルコーナー

仁別国有林は、秋田市から近く、豊かな自然に恵まれていることから多くの人々に癒しと安らぎを与えてきました。

昭和39年に仁別森林博物館が開館し、昭和43年には、明治100年記念事業の一環として全国6カ所に設けられた「国民の森」の一つに選ばれています。現在にいたるまで、森林環境教育や憩いの場として広く利用されています。



8 体験コーナー



楽しいクイズコーナーのほか、秋田スギのおもちゃや木工体験で家族みんなで楽しめます。また、ディーゼル機関車を復元した様子の映像などもご覧いただけます。



7 仁別森林鉄道



森林鉄道は、日本で明治42年に始めて導入され昭和40年頃まで活躍しました。丸太を運ぶだけではなく、地域の人々の交通手段でもあり、大変重宝されました。

ここでは、仁別森林鉄道の始まりから終焉までを振り返り、森林鉄道の栄光の時代を紹介します。

6 伐木・運材の歴史

昔から、山から木を伐り出し、人々が暮らしている里まで丸太を運ぶのは大変な作業でした。特に運材については、家畜を利用したり河川を利用するなど様々な工夫がなされ、関連する道具や技術が発達してきました。

ここでは、明治から現在までの伐木・運材の歴史をたどります。



4 国土を守る森林



森林は、土砂崩れを防ぐ働きや水を貯える働き、強風を和らげる働きなど様々な働きを持っており、国土や私たちの生活を守っています。

ここでは、こうした森林の働きを十分に引き出すための治山工事や病虫害の防除対策の取組を紹介しています。

5 森を育てる

木を植え、手入れをし、育った木を切り、跡地にまた木を植えるという林業のサイクルは、森林を健康な状態に保ちながら、持続的に木材を利用するために重要です。

ここでは、森林が育つ各段階に必要な手入れを紹介するとともに、これまでより効率的で安全に作業を行い、木材を安価で提供するために現在行われている省力化の試みを紹介しています。

